



グラフィス小学校とスタディツアーに参加したメンバーたち

Hungry for Mission 「志」を求める若者たち⑪

(上) ラブチャリのクラブパーティ。年に2回開催され、毎回1000人ほどを集める
(左) 自主制作CDの売上500円のうち400円がカンボジア支援に充てられる

GRAPHIS

「GRAPHIS(グラフィス)」は、自ら主催するクラブイベントの収益や自主制作CDの販売収益などを原資に、カンボジアで学校や診療所を建設し、運営している学生医療支援NGO。毎年夏に現地を訪問する彼らの途上国支援活動とは。

(聞き手・今一生) 文中敬称略

川崎 洋(19歳) グラフィス3代目代表。法政大学経済学部国際経済学科2年生
高橋 遼(19歳) グラフィス3代目副代表。慶応義塾大学総合政策学部2年生
蚊野 詞旭(21歳) グラフィス3代目副代表。日本大学商学部商業学科2年生

——まずグラフィスの主な活動を教えてください。

川崎 2004年に首都圏の医大生たちで発足しました。「ラブチャリ」というクラブイベントを主催し、カンボジアの現実を同世代に伝えたり、イベントの収益や自主制作CDの収益をカンボジア支援に充てたりする

カンボジアに救急医療の仕組みを作ろう——川崎

などしてきました。

06年にはコンポントム州に350人が学べる小学校を建設、09年3月にはコンコン州にプレイピセ診療所が完成し、診療所と国道を結ぶ8キロメートルの道も舗装しました。毎年夏にはスタディツアーとして現地を訪問しています。

高橋 これまでの活動は、初代代表の石松宏章(現OB会長)が書いた『マジでガチなボランティア』(講談社文庫)という本に詳しく書かれています。今は私たち3代目を中心となり、週に一度ミーティングをしています。診療所がある国道4号線を中心に活動する救急車1台、助車1台の計2台の運営費をねん出するために、イベント運営や今後の活動方針について話し合っています。

川崎 カンボジアには日本のようにしっかりとした救急医療の制度がありません。日本では全国平均6分

現場に到着する救急車が、カンボジアでは地域によって全く異なるのです。そのために待っても待っても到着しない状況、やっと到着したとしても民間の営利目的の救急車が高い搬送費を請求することもあります。首都のプノンペンでさえも、救急車の燃料費を捻出できていません。死亡原因の2位が交通事故死のカンボジアで救急システムが整っていないことの意味を深く考えました。09年3月に現地に行った時、実際に僕らが泊まっていた場所の近くでも事故があり、救急車と診療所の運営維持費の大切さを改めて感じました。

そこで、救急医療の仕組みを作り、救急隊員の育成や設備の補充にも力を入れようと、現地のNGOとプロジェクトを進めています。

蚊野 ミーティングの最初には、必ずカンボジアについて調べたことや現地に行ったときの思いを話してもら

クラブイベントで途上国の医療支援

<http://www.alterna.co.jp/>
全文はウェブサイト掲載